

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 2

2013 No.701

目 次

3 はじめの言葉

4 アベノミクス、経国済民となるか

止まらぬ第二の原発となるか

田原文夫

日本発の経済論がないと言われる。ところが、昨年暮れの選挙で大勝した自民党政府は、アベノミクスなる無制限金融緩和策をもって、世紀の経済政策実験に乗り出してしまった。どう考えても、安倍/麻生という両総理経験者に、真っ当な経済政策理論があるとは思えない。監視役であるはずのマスコミも、その基本機能を果たすどころか、お先棒担ぎの旗振りばかりで、どうにも止まらない方向に走り出してしまった。こういう政権を選んだのは国民である。最終的には、国民がその責めを負うことになるのだが、一旦走り出したら止まらない原発を、日本国民はもう一つ持ったと言えそうだ。日本発の経国済民実験の行方や如何に、である。

10 情報社会を考える その29

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

借入金だけでは企業の再生ができないように、国の再生も、財政出動だけで叶うことはない。間接部門が肥大し直接部門の規模を超え、アンバランスな状態になると企業の存続は難しくなる。国も同じだろう。貿易立国日本が、いつしか貿易輸入立国になっていた。日本産業の再生/復興を目指すには、その根源的な回復をもって本来の姿を取り戻すしかない。

13 日本再生/世界競争力回復のカギ

何故 M-BIM 構築が必要か その24

水田 浩

新政権は、景気回復のカンフル剤として、さらなる金融緩和策を推し進めることを決めた。物価上昇の目標設定もした。問題は、実質的に日本再生を実現する具体策の展開である。遅れてる東北復興を中核に、どれだけの実のある社会投資を精鋭化していくか。新政権では大幅な公共事業の再開を決めているようだが、予算投入だけでなく、公共事業を通じて日本再生/輸出産業の実力育成がどれだけできるかに日本の将来がかかっている。基本技術としての 2000 年以後の建設建設 CALS および M-BIM テクノロジーの本格活用が

カギとなっている。

19 連載 アーキテクチャ論 (22)

ビジネスゴールとアーキテクチャ

山本修一郎

今回は、Clements と Bass によるアーキテクチャ設計のための品質特性をビジネスゴールに基づいて抽出する手法 [1]について説明しよう。はじめにビジネスゴールがアーキテクチャ設計とどのように関連するかを紹介する。次に、ビジネスゴールの一般分類とそれに基づくアーキテクチャ品質特性が依存するビジネスゴールの具体的な記述方法を示す。なお、本稿では、この手法を説明するために、仮想的なビジネス事例として、「アーキテクチャ知識流通事業とそれを支える流通情報システム」を用いて確認してみよう。

28 ユーザー視点でのサーベイのススメ

aism

セキュリティリスクサーベイのススメをし、合わせてセキュリティ対策現場を検証している途上で、リスク監査部門から現業部門を大いに悩ます報告書の提出を求めている事例に遭遇した。要するに、前回の監査時点で破棄を求めた資料について、新たな監査作業では提出を求めたケースである。検証してみると、監査部門のスタッフが人事異動で入れ替わり、新人になっていたのである。業務の引き継ぎも不完全なまま、監査する側からの論理だけで監査作業が実施されていたのである。よもやと思い、古くて新しい問題に焦点を当ててみた。セキュリティ対策の本質は一体何であったのかを、改めて問い質されるような現実があることに驚かされた。業務遂行の手段として情報システムへアクセス現場で、ユーザーはID/パスワード管理で、過酷な負荷が要求されていることを改めて再認識させられた。

32 ものの造れる日本再生に向けて その17

第二／第三の創業へ

Dr.ベスト

第17回 スキルズインベントリを基盤とする

人的資源管理 (HRM) システムの構築 (3)

1970年代のオイルショック後の1980年代は「激動の時代」と予測されたが、実は、「ジャパンアズNo1=No1としてのニッポン」という、今にして思えば黄金期だった。その黄金の夢が一気に醒めたのが、1991年のバブル崩壊という悪夢からの出発だった。そしてそれは、さらに厳しい姿勢で日本全体の産業界のリストラクチャリングに挑戦する時代の幕開きだった。まさに温故知新である。新興国にはない一企業の枠を超えたリストラクチャリングの歴史をひもといてみよう。鉄鋼、造船、エンジニアリング、自動車、電気・電子業界の動向を追いながら、これからの日本再生に向けて踏み込んだ展望をしてみたい。

38 IT新時代とパラダイム・シフト

第40回 野放し状態のネット選挙

の解禁とその行方は

根本忠明

昨年暮れの衆院選では、政党や政治家によるネット利用がマスコミを賑わした。選挙期

間中のネット利用は、総務省の公職選挙法への抵触見解によりブレーキがかけられてきた。これが、今夏の参院選で、ネット解禁がやっと実現する運びという。地方の市長選では、ネット利用で当選した市長が相次ぎ、ネット選挙はすでに野放し状態になっている。このまま放置できる状況にない。ネット選挙の解禁に留まらず、ネット上での国民の世論が、投票行動に反映される仕組みの構築が急がれる。

4 1 続インテリジェンスへのいざない 37

イスラム武装勢力による日本人人質事件

今井 武

改めて日本の情報活動の真価を問い直される事件が起きてしまった。イスラム武装勢力と欧米各国の間には、長い歴史的な経緯がある。表向きの経済活動＝ビジネス展開だけを想定した情報処理では済まない問題があるということだ。当該国に経済的メリットをもたらし、貢献をしたからといって当該地域の国民／市民が満足してくれるものとは限らない。我が国には歴史的経緯も含め、今一步踏み込んだ世界的な情報活動が不足していることが思い知らされた。

4 4 一味違うウェブ検索

第三十一話 統計数値に注意する①

主催者発表の数値に注意する

ぐうのうえぶへい

現在、世の中の動きを数値で表示する傾向が強まり、一見、世の中の動きが正確に把握されるようになったように見える。残念ながら、これは錯覚にすぎない。今回から「統計数値に注意する」シリーズをスタートさせる。第一回は、主催者発表の数値の信憑性について、注意を喚起することにした。

4 6 新連載 バカヤロー侍 悪を斬る

すぎやまちヒロ

☆☆

WebCR 編集部からのお知らせ

本誌に連載／掲載されている記事に関するご質問、ご意見をお待ちしております。近い将来に予定されているプロジェクトに先立って不安や問題点の確認をなさりたい方、現在進行中のシステムのプロジェクトマネジメントにおけるトラブル関連など、何でも結構ですので、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

cr-info@jmsi.co.jp

☆☆

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300)
A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの
落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリニクス 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリニクス研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 匿名化された電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最新のインターネット防衛戦術心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2012年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたっての
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	インターネット関連の苦情と不正アクセス
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の
情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの(得)広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300)
A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売れない企業体質
■ ニュースリリースは東方向運賃	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300)
A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開港法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム撤退の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たなチーム
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍撤退所帯と新たな組み
第五章 FJO、IBM戦争	第十五章 開港場建設とバレンタイン
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米軍チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働中の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、異なる三人組	第二十章 稼働中の二 安室隆雄と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp